



沼 崎 亮さん
(長崎・20歳)

さわやか笑顔を心掛けます

★どんな仕事をしていますか
宮古市の金融機関に勤務して二年になります。担当は渉外業務で外勤が中心です。

★仕事で心掛けていることは
どんなときでも常に笑顔を心掛けています。また、お客様に何を聞かれてもすぐ答えられるように勉強している毎日です。

★仕事でうれしかったことは
お客様に「笑顔がいいね」と

ほめられたときは、とてもうれしかったです。

★趣味は何ですか
小学二年から続けている野球です。昨年十月には職場のチームで国体に出場しました。野球の一番の魅力は、何とんでも自分のプレーで勝敗が決まった瞬間ですね。何歳になっても野球は続けていきたいと思っています。

★今後の抱負は
仕事で必要となる税務や法務などの資格取得に挑戦していきたいです。そのために日々勉強を頑張りたいと思います。



左側に行ったりと、川をのぞき込むのがとても楽しい。町の中を抜けると織笠小学校を回り、海を見ながら山道を…。そして人と会うとあいさつや話を交わしながら…。

徒歩により、いろいろなものを発見したり景色の移り行く姿を見たりして、季節の移ろいを満喫しています。ずっと歩きます。天気が悪くない限り…。

黒澤頼江 (船越・?歳)

弁当配達で心もさわやか

毎週火曜日は、織笠地区のふ

れあい給食配達日。ある日、夫に弁当配達に行ってきたかと言われた。午前まで覚えていたのに忘れてしまった。はっと気が付き悪いことをしたと心残り。物忘れしやすいので前日に「お弁当配達忘れないこと」と大文字でメモを書いている。

夕方四時前に家を出てボランティアの皆さんと合流し、弁当の配達先の家を訪問。「ごめんださい」「はい」「お弁当です」「ありがとうございます」。

「ありがとうございます」。

受け取る人も配る人も心がさわやかになれると思う。「はい」の声を聞くと今日も変わりなく

配達でき、安堵する。

家に帰る道すがら、西空の雲間に見え隠れする夕日が「来週もお願ひします」と問いかけているように思える。

菊地サカエ (織笠・70歳)

◇ ◇ ◇

冬の鳥

天見上げては水を飲む

菊地孝進 (船越・?歳)

雪解けて滴る音

山崎泰司 (船越・59歳)

君に笑顔でいてほしい

君に幸せになってほしい

君が人生はくだらないって思っている

何のために生きているのか

わからないコトばかりで

おもしろいコトなんて

何一つないって思っている

どうしようもなく不幸だって

夢をあきらめかけていても

不幸があるから幸せがある

幸せになりたいって

思わない人はいないから

本当は君も心から

幸せを願っている

だから君には

幸せになってほしい

どんなに苦しい時だって

自分の願いを強く持つて

風の踊り子 (長崎・21歳)

みんなのスペース



さいとう みなみ ちゃん
(関口児童館・5歳)

わたしのゆめ

大きくなったら優しい看護師さんになって、注射でみんなの病気を治してあげたいな。

古里への便り⑧



ふる里山田同郷の会副会長
東京都中野区
貫 洞 量 靖さん (73歳)
〔八幡町出身〕

明けましておめでとうござい。新春に当たり、本紙であいさつできる機会を与えてくださったことに心から感謝致します。

ふるさと……。誠に心地よい響きのある言葉である。故郷を思う時それは、海、霞露、島、浜辺、川である。近郷の大沢、豊間根・荒川、船越、田の浜、織笠…。そして正月、祭りなど

の行事や田畑である。人間の性格というか資質は、十五歳ころまでに形成されるといわれているが、もしそうなら幼少年期に過ごした故郷とその文化は誠に大切で、人は永く思い出にひたることだろう。

私は十二歳で盛岡に、そして東京へ。Be Ambitious。一九六〇年、八十日間の世界一周を企画し、実現できたのは一九六三年で十八の国々を回った。その後さらに十数カ国が加わり、現在、数カ国とプロジェクト、インダストリー、トレーディングetc。

ボランティアながら諸国に貢献し、交流している。

ところで最近立ち寄る店で、よく山田産の殻付きカキを食するので、漁協へ電話してみると「以前は三年で出荷できたが、現在は四、五年かかる。おそらく密殖のせいだ、海の栄養分が足りないのでは」とのこと。それで思い至ったのが、米国デュポン社が特許を持つ「遠赤外線」使用のことである。いま山田湾の一隅で実験に着手。今後おいしい「ふるさと山田産カキ」が広く首都圏の皆さんに豊富に供給できるようになるのが、私の今年一番の希望で、衷心より祈っております。

投書

どんなことでも結構です。どしどしお寄せください。

心癒やされる園児の発表

待ちこがれていた船越保育園の恒例行事でもある生活発表会が去る十二月十一日に行われ、ホールはかつてない観客で超満員だった。

私も二人の孫が保育園児のころからこのイベントには毎年欠かさず出向いているが、保護者

はもちろん地域ぐるみの観衆の多さに満足感が湧いた日だった。日ごろの練習の成果が存分に表現できた園児たちの満足感が、私たち観衆にもそれとなく感じられた。どの演技もはつらつとし、たくましかった。五歳児の保護者による人形劇や職員の方の出し物の踊りは、当日のクライマックスだったし、最後を飾ったフィナーレでもあった。

私は冬眠中の沈んだ心境をこの発表会で癒やされ、とてもうれしかった。今回の発表会を期

徒歩で季節の移ろい満喫

朝夕寒くなり一日が短くなりました。そんな季節の中、てくてくと歩くのは楽しい。実は健康とダイエットのため…。右手に山田湾を見ながら仕事先まで約四十五分かけて歩いています。

私の家から坂を下っていくと、織笠川。サケが川を上っていて、よく橋の上から右側に行ったり